

E-3 乳幼児の身体発育ならびに精神発達に関する遂年的研究

—第11報— 生後5年間の身長と体重の型と知能指数との関係

鹿児島大教育 齋藤 マサ

本研究は、乳幼児の身体発育と精神発達の関連を知ることがかりとして、104名のこどもの身長・体重について、生後5年間の発育の型を分類し、同時にIQとの関係を検討しようとして試みたものである。

対象児は、生後5年間を通じて調査資料が揃ったもので、男児56名、女児48名である。調査は6カ月毎に、各家庭を訪問して、こどもの身体測定と精神発達検査を行った。

発育の型は、発育の変動係数と平均値曲線によって分類した。変動係数の最も低いものをA群とし、順次、変動係数の高い方へB・C・D群と分類した。発育のPatternは、変動係数によって、定増型、緩増型、急増型、変動型に、分類した。身長・体重において、男児は全例の約 $\frac{1}{3}$ が定増型であるが、女児はこれには及ばない。個々のこどもの発育曲線と平均値曲線との関係については、比較的発育が安定しかけた3歳から5歳の範囲の検討にとどめた。3年間を通じて中位($\pm 0.5\sigma$)のものは、男児は身長・体重ともに全例の約 $\frac{1}{5}$ であり、女児は約 $\frac{1}{7}$ である。

身長・体重の発育の型と、IQのあいだには、部分的に関係がみられた。3年間を通じて、平均値曲線を下まわるグループは、他のグループに比べてIQ平均値は低いようである。